

スピリチュアル物語

41話 by 魔女ともえ

この『スピリチュアル物語』は、BRIDGE USAさんよりお引越しました

魔女ともえ

ミステリースクールよりイニシエーションを受けた全米初の日本人魔女。チャネリング、白魔術、過去世リーディング、オーラ診断、浄化などを通じて、人々の幸せをサポート。ヘリと小型機のパイロット免許を持つユニーク魔女。

トランスマリOTT内スターボックス(要予約):1時間 \$60

メール相談:(要予約):majyotomoe@gmail.com \$16/1件(Paypal)



「記憶イコール事実ではないってどういう意味だい？」困惑顔のマジョリアルルの代わりにウイザットが口を開いた。「人は起きたことを自分の印象として記憶していることが多い。つまり、事実そのものを機械の様に正確に記録しているのではなく、その人それぞれに独自の記憶として捉えておるんじゃない」マグワートの説明に、「独自の記憶？」マジョリアルルが更なる困惑顔で応える。「記憶は記録ではなく、その人の感情や解釈が加えられた、謂わば感想じゃよ」「感想??？」「ま、感想というのは極端な言い方ではあるが、人は事実をそのまま無垢な状態で記憶することは出来ない。どうしても

その人の感情や解釈が加えられてしまうものなんじゃよ。だから、1つの事実に対して、人それぞれの感想、つまりその人としての真実が存在することになるんじゃない」「人それぞれの真実??？」もはや2人はマグワートの言葉を鸚鵡おうちの様に繰り返すのみであった。「そうじゃ。事実はいつでも真実は無数に在ることになる。その人にとってそれは真実であり、嘘ではない。けれども、事実そのものではないということじゃ」「じゃあ私達の記憶って一体何なんですか？事実とは全く違う記憶もあるということでしょうか」「マジョリアルルがどうにか話に付いて行こうという態度を見せる。「そうじゃ。人は

記憶を自分に都合よく改ざんしていることがある。都合よくというのは利益になるという意味ではなく、自分の思い癖や気質に則した都合よさという意味じゃが、それは多かれ少なかれ誰しもが無意識でやっていることじゃ」「そんなことあるのかな」「ウイザットが小首を傾げる。「過去の話をしている際に、相手と記憶が食い違っていることはいないかい？嘘吐きは別として、それはどちらかが嘘を言っているとかではなく、双方にとってはそれぞれに真実の記憶なんじゃよ」



★これまでのお話(1~40話)は魔女ともえのwebで読むことができます。

www.majyotomoe.com お話の続きは8月11日号をお楽しみに!